

# チャレンジ

The best way to predict the future is to create it.

～未来を予測する最良の方法は、未来を創ることだ～<ピーター・ドラッカー>

こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾

**政策提言報告書 2018**

# 目次

◆ チャレンジ「新発想」研究塾とは .....	1
◆ 活動の経過 .....	3
◆ 成果報告会 .....	8
◆ 提案概要	
1 AGR カルチャー6 (A グループ) .....	10
2 ゆとり品質 (B グループ) .....	12
◆ 研究塾の振り返り .....	14
◆ 資料 .....	18
・ 報道資料	
・ 研究塾生名簿	
・ こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾設置要綱	

# チャレンジ「新発想」研究塾とは

本市では、住民ニーズを的確に捉え地域の魅力を高めた住民満足度の高いまちづくりを実現するため、住民生活を直視し、新しい発想のもと知恵と工夫を活かした実効性のある施策の調査研究を行うとともに、こおりやま広

域圏の若手職員の政策形成能力の向上に資するこおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾（以下「研究塾」という。）を設置しています。

## チャレンジ「新発想」研究塾

これまで本市では、若手職員による政策研究会を設置し、新たな行政課題の解決や、職員の政策立案能力向上に取り組んできました。

今年度（平成 30 年度）からこおりやま広域圏の市町村に対象者を拡大し、今年度は、田

村市・本宮市・三春町の3市町の若手職員とともに取り組みました。研究テーマについても、広域的な課題解決となるテーマを設定して、互いの地域の強み・弱みを分析し、より実現可能性の高い施策立案を行いました。

## 若手職員による政策研究会の変遷

平成 8年度から平成17年度 『きらめき21推進研究会』

平成18年度から平成24年度 『ハーモニー推進研究会』

平成25年度から平成29年度 『チャレンジ市役所「新発想」研究塾』

平成30年度から 『こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾』

**塾生の対象をこおりやま広域圏の15市町村に拡大！！**

## こおりやま広域圏とは

### こおりやま広域圏とは

郡山市と近隣 14 市町村が 2018（平成 30）年中度に形成を目指している「こおりやま広域連携中枢都市圏」のことです。

郡山市を中心に、須賀川市、田村市、本宮市、大玉村、鏡石町、天栄村、猪苗代町、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、三春町、小野町の4市7町4村が協力し、それぞれの強みや資源を生かし、人・モノ・情報が行

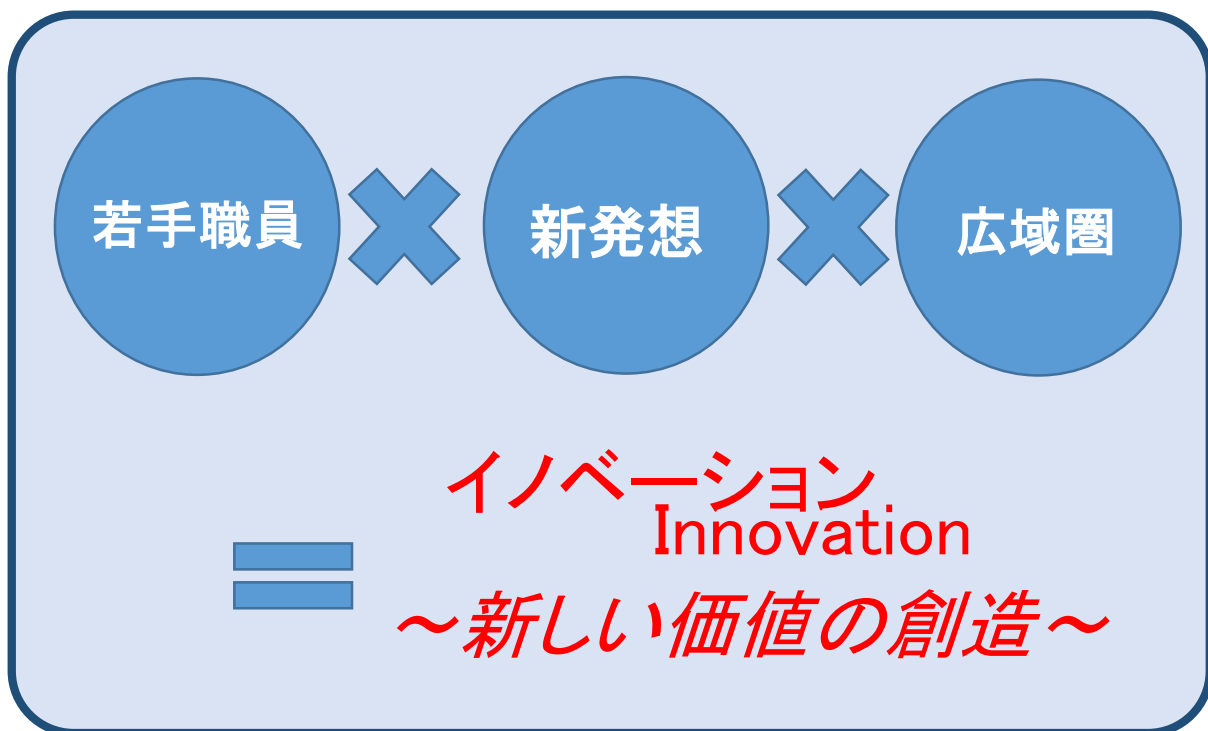
き交う歴史的・文化的にも結びつきが強い地域です。

### 15 市町村のネットワーク

人口減少・少子高齢社会の進展により、地域における行政サービスの質の維持が難しくなることが予想されています。そこで、近隣市町村が互いに手を取り合い、協力して圏域内の行政サービスを提供するなど、「One for all

All for one」の精神のもと、互いに地域の良さを尊重し、「広め合う、高め合う、助け合う」関

係を構築し、圏域の皆さんが、将来も安心して快適に暮らせる地域づくりを目指しています。



# 活動経過



## 開講式・オリエンテーション【2018年5月】

研究塾の第一歩  
を踏み出す

### 開講式

4月にこおりやま広域圏に塾生募集を行い、公募により10名の意欲あふれる若手職員が集結しました。

当初、郡山市以外の枠を2名程度としていましたが、3市町から計4名の募集があり、最終的に郡山市6名、田村市2名、本宮市1名、

三春町1名【男性6名、女性4名】に決定しました。

開講式では、本研究塾の塾長である品川市長からの講話に続き、塾生から現在の担当業務や応募動機などの自己紹介を行いました。



皆さんにしかできない  
提案をしてください



職場の垣根を越えた政策について  
一緒に考えましょう

## オリエンテーション

### 研究塾の第一歩を踏み出した



オリエンテーションでは、事務局より今後のスケジュールや進め方などの説明があったのち各グループの班長と副班長及び塾の代表と副代表を選出しました。班長には田村市、代表には本宮市から立候補がありました。

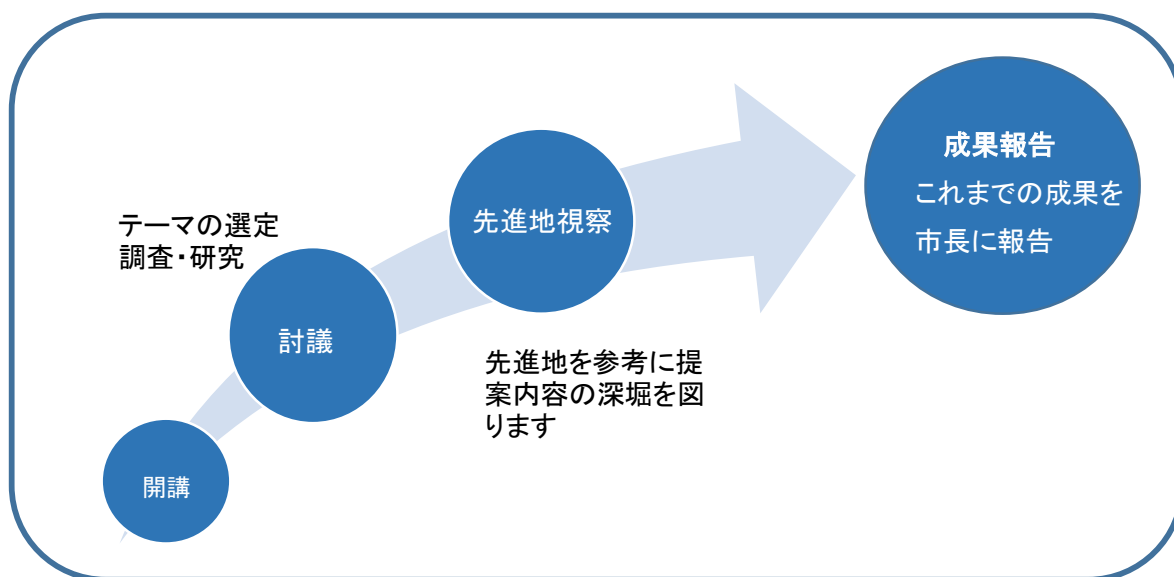
オリエンテーション後には、郡山市内の施設

### 地域の魅力を再発見



逢瀬ワイナリー視察

見学【ほっとあたま(熱海多目的交流施設)、逢瀬ワイナリー、郡山しんきん開成山プール】を行い、他市を知ってもらう機会となりました。その後、懇親会を行い、親睦を深め、研究塾のスタートとなりました。



## 調査研究期間(5月から10月)

### <基本的な進め方>

- ・基本的には週1回程度参集し討議を行います。
- ・業務の都合に合わせ、曜日や時間、開催の可否は塾生で決めます。
- ・討議内容について、記録票にまとめ、進捗等を報告します。

## テーマの方向性を決める



各グループは、まず具体的な研究テーマ決定に取りかかりました。

研究したいテーマは、当然違う中でグループの方向性を決めることは、思いの外難しいことではありますが、お互いの意見を尊重し合い、テーマを決定しました。

## 提案内容について具体化する



次は、具体的な提案内容について検討します。課題は何なのか、その課題解決となる手法について、先進地などを調査する。そして「こんな事業は面白い」若手職員らしい『**新発想**』を追究しました。塾生は、時にぶつかり合い、笑い合い、助け合い、政策立案にチャレンジしました。

## 他市町でも開催

討議の開催場所も郡山市にかぎらず、田村市・三春町でも行いました。田村市では、廃校を活用したテレワークセンター「テラス石森」、三春町では、三春交流館「まほら」で開催しました。

両市町で、視察もかねることで各市町村の取り組みを知る機会にもつながり、新たな気づきにもつながりました。

また、その後の懇親会には、開催市町の上司の方々が来ていただき、人脈を広げることができたのは、塾生にとっても良い経験になりました。



田村市:テラス石森



三春町:まほら



## 先進地視察の実施(8月)

研究テーマに基づき、さらなる研究内容の深堀を行うために、先進地視察を実施しました。それにあたる視察先の選定や視察先へのアポイントなどについても塾生各自で行いま

した。両グループともに行政のみならず、民間企業への視察を行い、幅広い知見を深めました。さらに、この視察を通し、塾生同士の輪も深めることができました。

**視察概要:Aグループ (8/7~8/9) 行程:三重県→京都府→滋賀県**

Aグループは、6次産業化の取り組みにあたり、ノウハウ・技術がない、連携がなく参入のハードルが高いなどの課題を解決すべく、

観光分野との連携、官民連携での取り組み、民間業者によるトータル支援、行政主導によるトータル支援などについて学びました。



### 株式会社 松阪協働フォーム

農業を中心として地域振興や市民の健康福祉向上などの取組みについて視察。



### 株式会社モクモク手作りファーム

6次産業と観光の連携、民間企業によるトータル支援について視察。



### 一般社団法人京都府農業会議

行政との連携によるワンストップ支援体制、ビジネスプラットフォームの手法、効果について視察。



### 大津市産業観光部農林水産課

補助金の創設、食育推進による地産地消の取組みについて視察。

先進的な事例を学ぶことができ、勉強になりました。



視察を機に、お互いをより知ることができました。





**視察概要: Bグループ(8/1~8/3) 行程: 東京→神戸**

職員一人ひとりの生産性を上げるために、「意欲」「効率性」「柔軟性」に着目した“スマートでかっこいい”働き方を提案するため、マネ

ジメントによる人事評価、民間企業のオフィス改革、行政の働き方改革先進事例などについて学びました。



**株式会社ネットブレインズ**  
モバイルワーク、チャットの活用などのオフィス改革の実践について視察。



**株式会社三栄建築設計**  
マネジメントによる人事評価手法について視察。



**豊島区役所情報管理課**  
テレワーク、フリーアドレスなどの「豊島区モデル」について視察。



**神戸市役所業務改革課**  
働き方改革導入を全庁への普及に向けた取り組みについて視察。

**報告会に向けて(9月から10月)**

**討議も本気モード**



残り1週間は、リハーサルなどで連日のように集まり、最後まで調整を行い、本番を迎えました。

# 成果報告会

## 若手職員にしかできない政策提言！！



10月16日(火)に、5月の研究塾が開講以降、5か月間にもおよぶ調査研究、先進地視察を行ってきた成果を品川塾長(市長)、田村市副市長、本宮市副市長、三春町副町長、各市町村の職員等、総勢200名の方々の出席のもとで報告しました。

Aグループは、「6次産業化トータル支援ネット

ワークの構築」、Bグループは、「スマートな働き方」(働き方改革)について、政策提言を行いました。報告会を迎えるまで、何度もリハーサルを重ね、修正し、内容だけでなく、誰が見ても分かりやすく見えるユニバーサルデザインにも注意しながら報告資料を作成しました。

### 代表挨拶【本宮市 小石澤 佑樹さん】



研究塾を通して、私たち塾生はこおりやま広域圏という大きなスケールに苦戦しながらも、この広域圏の可能性について考えて参りました。そして、これからの人口減の荒波を乗り越えて、魅力ある地域を維持するためには、広域圏全体の発展が必要になると改めて

認識することができました。

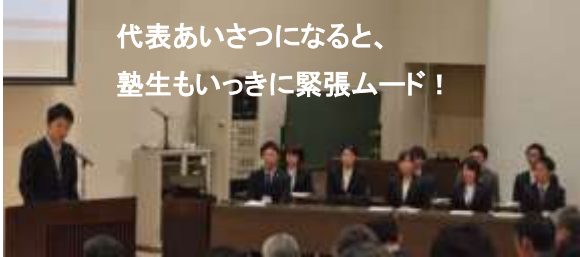
この5か月間を振り返ってみると、行政の垣根を越えて、お互いがお互いの地域を思いやり、同じ目標に向かって議論を重ねる経験は普段の業務では決して体験することが出来ない貴重なものでした。

私たちは、この経験を糧に、日常の枠にとられない広い視野を持って、それぞれの業務に取組み、広域圏の発展に貢献していきたいと考えております。





笑顔の人もいれば、緊張しまくりの人も。  
両チームのリーダー大丈夫か！？



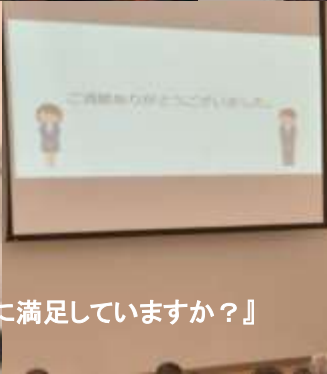
代表あいさつになると、  
塾生もいっきに緊張ムード！



大勢の前での  
プレゼン



『今の働き方に満足していますか？』



質疑・応答



発表を終え、ほっとした表情の塾生たち。お疲れさまでした。

# チーム名： AGRカルチャー6 (Aグループ)

## 研究テーマ

### 『6次産業化トータル支援ネットワークの構築』



Aグループのテーマは、「6次産業化」について研究することになりました。6次産業化をはじめたとした農業分野に業務で携わっていたのは、メンバー5人のうち2人のみ。そのほかの3人は、まず6次産業とは何か？からスタートしました。初期の段階は、意見をとにかく

出し合い、最終的に広域圏のネットワーク構築に決まりました。

個性派揃いのメンバーも、互いに意見を尊重し合い、リーダーを中心に徐々にまとまり、非常に雰囲気の良いチームでした。



# 提 案 概 要

## 現状・課題

### 農 業

- 総農家数・販売農家の減少
- 農業は儲からない  
(粗収益100万円未満の割合が約6割)
- 農産物は販売用ではなく、自家消費用
- 農業 ≠ ビジネス

### 6次産業

- ノウハウ不足
- 農産物を加工して販売することが浸透していない
- 加工・販売を一人で全てやるのは難しい
- 他産業と上手く連携できない
- 6次化参入のハードルが高い

## 課題解決事業

### ～ こおりやま広域圏6次産業化ネットワーク ～

#### 提案①

#### 農談会

農家が主体となって連携する場を提供  
農家に価格決定権あり  
農家の高収益化が期待できる

#### 提案②

#### リクエスト掲示板

農家や消費者が自由に書き込める  
WEB上の掲示板  
新しい取引相手の開拓  
消費者ニーズを捉えた  
商品誕生

#### 提案③

#### 6次化LABO

広域圏内で利用可能な加工場を  
一覧にしてWEB上で公開  
自家消費用でも加工場は利用可能  
加工レシピをデータベース化して  
加工場に掲示

#### 提案④

#### 消費者目線ブランド

商品にQRコードを添付し  
消費者レビューを集計  
レビューの高い商品をブランド認定  
ブランド認定商品を  
広域ネットワークで販売  
他ブランドとの差別化

## こおりやま広域圏 = 6次化先進モデルエリア

農業のイメージが一新！  
就農者の増加

農業が成長産業に！  
農業で新たなビジネスチャンス！

# チーム名 ゆとり品質 (Bグループ)

## 研究テーマ

### 『スマートな働き方』(働き方改革)



Bグループは、まずテーマの選定において、移住定住や子育て支援、観光振興、アプリなどの ICT 分野など、各人の研究したいテーマが異なり、「何をテーマにするか」から始まりました。討議を重ねた結果、自分たちの身近な課題解決に取り組むことになり、テーマは「働き方改革」に決まりました。

経験豊富な原竹リーダーと出口副リーダーを中心に、個々人の意見を上手く引き出し、互いにサポートし合い、非常にまとまりのあるチームでした。班員の意見を尊重し合っていたので、経験の若い職員も自分の意見を遠慮せずに出せていました。





# 提案概要

～ゆとりですがなにか～

## 現状・課題

### 今の働き方に満足していますか？

私たちはもっとやりがいを感じて**スマート**に**かっこよく**仕事がしたい！！

さらに、これからの自治体は・・・

職員数が減少する一方、業務量・需要は増えていく



組織全体に高い生産性が求められる！！

生産性をあげるために・・・

意欲



効率性



柔軟性

## 提案内容

### I 人事評価UPDATE 《ノーレイティングのエッセンスを+》

- ・目標シートを係内で定期的にリマインド
- ・目標を係内で共有、相互支援、フィードバック
- ⇒目標意識の日常化・信頼関係強化

【意欲UP】

目標



### II AI×〇〇〇

#### 《窓口・議事録・スケジュール・電話》

- ・ユニバーサル端末：音声ガイダンス・手話認識・翻訳機能
- ・サマリー機能：自動テキスト化・要約化
- ・リマインド機能：自動スケジュール化・通知機能
- ・AI型コールセンター：FAQ化・担当者振り分け・チャットメモ
- ⇒業務量軽減及び住民サービスの向上

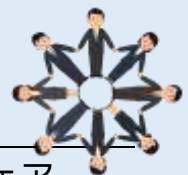
【効率性UP】

### III シェアでしえあわせ

#### 《ワークシェアリング》

- ・在宅勤務を活用し長期休暇中職員に庁内職員の業務をワークシェア
- ・広域圏内15市町村同士で業務をワークシェア
- ⇒業務量軽減及び職員のスキルアップ

【柔軟性UP】



住民サービス向上！！  
魅力あるこおりやま広域圏へ！！

住民サービス向上

公務員ステキ！



# Look Back 研究塾を振り返って

5か月間の研究塾が終わって、数ヶ月立ち、今の心境や研究塾期間を振り返っての様々な意見を聞かせてもらいました。

## — あらためて今回チャレンジに応募したきっかけを教えてください。



### 【 郡山市 渡辺さん 】

私は、昨年度同じ課の先輩が参加していて、楽しそうだなと思って見ていました。今年から他市町村の若手職員も参加するとのことだったので、交流したいと思い参加しました。あと上司も参加を勧めてくれました。

### 【 郡山市 出口さん 】

私は、何か新しいことに取り組みたいと思っていたところ、この研究塾のOBにも勧められたので応募しました。

### 【 田村市 原竹さん 】

私は、同世代の職員と、職場の垣根を越えた

政策について語り合う機会が無かったため、興味が沸き応募しました。あと上司の後押しも大きかったです。

### 【 田村市 橋本さん 】

入庁して2年が経過し、業務を通じてもっと外の世界も知っていくことが必要と感じることが多くなってきていたところ、上司よりこの研究塾の紹介があり、応募しました。

### 【 郡山市 馬場さん 】

もともと興味はあったんですが、なかなか踏み出す勇気が持てずにいたんですが、「新しいことに挑戦したい」という思いが強くなり応募しました。

### 【 郡山市 古川さん 】

昨年の報告会を見て、自分も大勢の前でのプレゼンを経験してみたいと感じており、そこで若手職員らしい提案をしたいと思っていました。

### 【 本宮市 小石澤さん 】

私は、気づいたら選ばれていました！

## — 実際に研究塾に参加してどうでしたか？

### 【 郡山市 出口さん 】

政策立案にあたり、提案までの過程、資料づくりやプレゼンの仕方、事務局を見てマネジメント力などについて学ぶことができました。また、先進地視察を通して、他の自治体や企業の職場環境を視察でき、働きやすい環境づくりへの参考としたいです。なによりメンバーとの絆が深まりました。

### 【 田村市 橋本さん 】

今回、この研究塾に参加した目的は外の世界に出て、自分で見るもの・経験するものを取捨選択しながら今後につなげたいと思っていただけ、田村市以外での研修はとて有意義なものとなりました。研究塾で得た人脈は、今後のこおりやま広域圏の連携にも生きてくると思います。

### 【 郡山市 平栗さん 】

今回は、他の市町村の職員と交流する機会が多く、自分を見つめ直す機会となりました。例

えば、知識量やスピード感などに違いがあり、なにより行政マンとしての意識の差をすごく感じました！

自分の現状と比較してもものすごく刺激となり、自分を成長させる機会になりました。



有意義な先進地視察

【 郡山市 渡辺さん 】

多くの意見交換を交わす中で、発想が広がりましたし、自分の意見も言えるようになりました！今思えば、もう少し自分の意見を持ったり、伝えたりできればと後悔もありますね。

【 三春町 星さん 】

普段あまり考えることができない自由な発想で、

自分のやりたいことを約5か月間学べたことは、とても楽しく、有意義な時間でした。正直、参加していなかったら職場環境などについて考えることもなかったと思うし、日々の業務を見直すきっかけにもなりました。

【 郡山市 古川さん 】

現在担当している業務以外の分野に所属する職員と交流することで、多様な視点から問題の解決を考えることができ、またプレゼン用の資料作成など経験できました。

【 本宮市 小石澤さん 】

事業や行政色の違いなど、近隣市町村の実状と本宮市の比較ができ、参加していなかったら気づかないことが多かったと思います。

【 郡山市 須賀さん 】

やっぱり視察に行けたのが良かったです。楽しかったです！

## — 苦労したことなどはありましたか？

【 田村市 原竹さん 】

やはり各メンバーの職場が異なるため、お互いのスケジュール調整は苦労しました。仕事終わりに集まったりしましたが、打合せ後にみんなでご飯食べたり、ボーリング行ったりしたのである意味楽しみました。

【 田村市 橋本さん 】

お互いの意見をうまく拾い上げることは難しかったですねー。あとは、報告会のパワポ資料などの共有がデータ容量の都合上送ることができなかったなど、情報共有の面で苦労はしました。

【 郡山市 出口さん 】

意見等が煮詰まったりしたときなど、班長にはだいぶ負担をかけてしまいました。

【 郡山市 馬場さん 】

なかなか斬新な発想や、広域的な視点を捉えることに苦労しました。

【 本宮市 小石澤さん 】

発表資料の作成においては、ユニバーサルデザインの見せ方やデータに基づく政策立案の必要性など大変勉強になったので、来年度はぜひ、講習などを開催していただけるとより深く追求することができるかと思います。

— その辺は来年度の課題としてカイゼンに取り組みたいと思います。



悩みに悩んだ古川リーダー

## — この経験をどのように生かしていきたいですか？

【 本宮市 小石澤さん 】

同じ目標に向かって議論を重ねる経験は、普段の業務では決して体験することができない貴重なものでした。この経験を糧に、日常の枠にとらわれない広い視野を持って、それぞれの業務に取り組み、広域圏の発展に貢献していきたいと考えます。

また他市町の先進的な取り組み、柔軟な発想、発信力、職員育成など、本宮市にないものに触れる機会でもあったので、今後切磋琢磨できればと考えています。

【 三春町 星さん 】

今回研究してきたこと(働き方改革)の一部でも今後生かしていけるように、日々の業務を見直し、今よりもっと快適に仕事が行えるようにしていきたいと考えています。今私に求られていることは何かをしっかりと考え、日々の業務に励んでいきたいです。

【 郡山市 渡辺さん 】

今回の研究の中で、ひとつのテーマに対する現状、要望やニーズなどを把握した上で事業を

提案する過程を経験できたことは大変勉強になりました。今後、新たな提案をする際にも生かしていきたいと思います。

【 田村市 原竹さん 】

市町村の垣根を越えて互いに助け合える仲間ができたことは、今後の大きなメリットになると思います。

【 田村市 橋本さん 】

研究塾を通して感じたもの、視察で経験したものの、人脈、報告会の講評などの多くが今後の業務に生きてくると思います

【 郡山市 馬場さん 】

提案して終わりではなく、自分であれば、どう進めていくかなど、住民サービス向上をより意識して、業務に携わるとともに、「聴く・話す・感じる」を大切にして、さらなる自己啓発に生かしていきたいと思います。



## — 最後に一言！！

【 郡山市 馬場さん 】

終わってみて、本当に研究塾に参加してよかったと心から感じています。悩んだ時間は多かったですが、塾生と議論を重ね、様々な視点や考え方を持つことができたことは大変収穫が大きかったと思います。

【 三春町 星さん 】

今後もこおりやま広域圏の横のつながりによ

り、情報や知恵の共有を図り、協力し合いながら魅力的な自治体づくりをしていきたいです。

【 田村市 原竹さん 】

報告会やその後においてもメディアや雑誌などに取り上げられていることを考えると、自分たちが行ってきたことが、単なる市町村の若手職員の小さな取り組みではなく、行政内外から注目が集まる重要な事業であると実感しました。



このような体験はなかなか出来るものではないので、ぜひ多くの若手職員に味わってもらいたいのので、自分の周りの職員にも積極的に勧めていきたいと思っています。

【 郡山市 古川さん 】

今年度を経験し、こおりやま広域圏の全市町村より参加することで、より圏域の共通する課題

解決となる提案ができるようになると思います。



### — 皆さん、ありがとうございました。

【 郡山市政策開発課 】

あらためて研究塾生の皆さん大変お疲れ様でした。勤務時間中や時間外に多方面から参加することは、大変だったと思います。職場の理解があってできたと思いますので、この研究塾を通し

て成長できたことを今後に活かしていただければ幸いです。また、この研究塾を通しての『つながり』を大切にし、こおりやま広域圏の発展に寄与できるような人材になることを期待しています。

### — 来年度に向けて【告知】！！

【 郡山市政策開発課 】

来年度については、今年度の課題等を生かし、よりバージョンアップした研究塾に取り組んでいきます。

少し興味がある、ちょっと面白そうだなと思う若手職員は、ぜひ『チャレンジ』してみてください。

皆さんのチャレンジをお待ちしております。

4月より募集を開始します！

乞うご期待！！



# 報道関係

取組み状況や成果報告会について、多くのメディアに取り上げられました。

10/18「福島民報」

## 地域活性化へ施策提案 郡山で広域圏研究塾報告会



若手職員が新たな取組を提案した報告会

### 若手職員が成果披露

「おろりやま広域圏」研究塾の18日(金)の報告会が、郡山市の若手職員らで開かれた。この報告会では、若手職員が新たな取組を提案した。報告会には、郡山市の若手職員らと、関係機関の代表者が参加した。報告会では、郡山市の若手職員らから、おろりやま広域圏の活性化に向けた取組について、報告が行われた。報告会では、郡山市の若手職員らから、おろりやま広域圏の活性化に向けた取組について、報告が行われた。報告会では、郡山市の若手職員らから、おろりやま広域圏の活性化に向けた取組について、報告が行われた。

## 行政EXPRESS

### 地域課題解決のための若手職員が政策提言

郡山市では、若手職員の政策能力向上を目的とした研究塾を設置し、新たな視点による政策提言などに取り組んでいる。今年度は、近隣市町村で形成を目指している連携中核都市圏「こおりやま広域圏」の職員からも若手職員を募集。田村市・本宮市・三春町の3市町と郡山市の職員が二つの政策研究チームに分かれ、政策研究に取り組んだ。



研究塾の打ち合わせ風景(出典:郡山市)

## 時事通信社「地方行政」 11/19 第10848号

広域化した「6次化」A・B・O(うま)、消費者目線のブランド化などを提言した。働き方改革では、人工知能(AI)を活用した効率的な働き方や、広域圏内の職員同士で専門的な業務などを分け合うワークシェアリング手法など、業務や市町村の特を超えた新しい働き方について提言した。

### 地元業者の利用検討義務付け

公共工事の設計業者に対し、県産資材の利用率を確保することを義務付ける。公共工事の設計業者に対し、県産資材の利用率を確保することを義務付ける。公共工事の設計業者に対し、県産資材の利用率を確保することを義務付ける。

11/16「自治日報」

### 若手職員による 研究塾が政策を提言

福島県郡山市(32万6900人)は、若手職員による政策研究会を設置し、新たな行政課題の解決や、職員の政策立案能力向上などを図っている。今年度から、近隣14市町村とともに形成を目指している連携中核都市圏「こおりやま広域圏」に対象を拡大。田村市・本宮市・三春町の3市町の若手職員とともに「こおりやま広域圏チャレンジ」研究塾を設置し、取り組んできた。

### 若手職員の政策研究会設置

郡山市は、若手職員による政策研究会を設置し、新たな行政課題の解決や、職員の政策立案能力向上などを図っている。今年度から、近隣14市町村とともに形成を目指している連携中核都市圏「こおりやま広域圏」に対象を拡大。田村市・本宮市・三春町の3市町の若手職員とともに「こおりやま広域圏チャレンジ」研究塾を設置し、取り組んできた。

## 月刊ガバンス12号

### 本格導入

熊本市(6万3000人)は、業務プロセスを自動化するRPA(ロボティクス・プロセス・オートメーション)の本格導入を開始した。16年4月の熊本地震に伴う災害対応業務をはじめ事務事業拡大によるマンパワー不足の解消と、定型的作業の効率化・迅速化で業務改革を図るのがねらい。自治体業務へのRPAの本格導入は全国初となる。市は17年度に総務省の「業務改革モデルプロジェクト」を活用してRPAを活用した業務改革に着手し、RPA導入に向けた業務の分析・実証実験を行った。具体的には、ふるさと納税業務における寄附情報のダウンロード・アップロード

提言内容は、①6次産業化のネットワーキングを生かした施策を提言。②では、AIを活用した業務の効率化などの新しい働き方について提言し

### 郡山市 広域圏形成で先行モデル

郡山市は、広域圏形成の先行モデルとして、おろりやま広域圏の活性化に向けた取組について、報告が行われた。報告会では、郡山市の若手職員らから、おろりやま広域圏の活性化に向けた取組について、報告が行われた。



# 研究塾生名簿

## Aグループ

No.	市町村名	所 属	職 名	氏 名	採 用 年 度	備 考
1	郡山市	政策開発部 ソーシャルメディア推進課 市政情報センター	主事	ひらぐり まみ 平栗 真実	平成27年度	
2	郡山市	税務部収納課	主事	ふるかわ まなぶ 古川 学	平成26年度	班長
3	郡山市	こども部こども支援課	主事	わたなべ みさき 渡辺 美咲	平成28年度	
4	田村市	産業部観光交流課	主事	はしもと あぐる 橋本 拳	平成28年度	副班長
5	本宮市	産業部農政課	主事	こいしざわ ゆうき 小石澤 佑樹	平成23年度	代表

## Bグループ

No.	市町村名	所 属	職 名	氏 名	採 用 年 度	備 考
1	郡山市	市民部市民課 市民サービスセンター	主事	でぐち ひろゆき 出口 大将	平成22年度	副班長
2	郡山市	保健福祉部生活支援課	主事	すが ひろき 須賀 拓輝	平成28年度	副代表
3	郡山市	保健福祉部 保健所地域保健課	主事	ば ば みずほ 馬場 瑞穂	平成25年度	
4	田村市	総務部総務課	副主査	はらたけ ひろゆき 原竹 宏幸	平成23年度	班長
5	三春町	企画政策課	主事	ほし あやこ 星 綾子	平成27年度	

## こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾設置要綱

### (設置)

第1条 住民ニーズを的確に捉え地域の魅力を高めた住民満足度の高いまちづくりを実現するため、住民生活を直視し、新しい発想のもと知恵と工夫を活かした実効性のある施策の調査研究を行うとともに、こおりやま広域圏の若手職員の政策形成能力の向上に資するこおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾研究塾（以下「研究塾」という。）を設置する。

### (調査研究事項等)

第2条 研究塾は、広域連携により効果的に解決すべき課題について、次に掲げる事項を調査研究し、その成果を郡山市長に報告する。

- (1) 東日本大震災・原子力災害からの復興を加速させる取組み
- (2) 住民福祉の増進につながる取組み
- (3) 自主的・自立的なまちづくりのための取組み
- (4) 先導性・モデル性のある取組み
- (5) その他こおりやま広域圏が解決すべき課題への取組み

### (組織)

第3条 研究塾は、公募または各自治体の所属の長が推薦する10人以内の研究塾生をもって構成する。

- 2 研究塾に代表及び副代表1人を置き、研究塾生の互選によって定める。
- 3 代表は、研究塾を代表し、会務を総理する。
- 4 副代表は、代表を補佐し、代表に事故があるときは、その職務を代理する。

### (会議)

第4条 会議は、代表が招集し、代表が会議の座長となる。

- 2 代表は、特に必要があると認めるときは、研究塾生以外の職員の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

### (研究班)

第5条 研究塾に調査研究事項に応じ、専門的に調査研究を行うため、政策開発部長が定める数の研究班を置く。

- 2 研究塾生は、いずれかの研究班の班員となる。
- 3 研究班に班長及び副班長1人を置き、班員の互選によって定める。
- 4 班長は、研究班を代表し、その事務を掌理する。
- 5 副班長は、班長を補佐し、班長に事故があるときは、その職務を代理する。
- 6 研究班の会議は、班長が招集し、班長が会議の座長となる。
- 7 班長は、特に必要があると認めるときは、会議に班員以外の職員の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。
- 8 班長は、関係課等の長に、調査研究上必要な資料等の提供を求めることができる。

### (各課の協力)

第6条 課等の長は、研究塾における調査研究の過程において、必要な説明、資料等の提供を求められたときは、速やかにこれに応じるよう努めなければならない。

### (庶務)

第7条 研究塾の庶務は、政策開発部政策開発課において処理する。

### (委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、研究塾の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、平成8年8月30日から施行する。

附 則

この要綱は、平成11年4月13日から施行する。

附 則

この要綱は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年4月25日から施行する。

附 則

この要綱は、平成20年7月22日から施行する。

附 則

この要綱は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成25年6月11日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾2018政策提言報告書

平成31年2月発行

編集・発行 郡山市政策開発部政策開発課

〒963-8601 郡山市朝日一丁目23番7号

TEL 024-924-2021

FAX 024-924-2822

e-mail [seisaku-kaihatsu@city.koriyama.lg.jp](mailto:seisaku-kaihatsu@city.koriyama.lg.jp)